

100年の時を超えて

華やかによみがえる

花嫁行列復活に
にぎわう根雨のまち

出雲街道の面影が残る根雨の町並みを広く知ってもらい、郷土の文化を後世に伝え、町の活性化につなげようと、3月29日、『出雲街道根雨宿 花嫁行列と長持唄』（出雲街道根雨宿花嫁行列実行委員会主催）が開かれました。

約100年前に日野町で行われていた花嫁行列。花嫁の門出に長持唄を歌いながら、ちようちん持ちを先頭に花嫁が仲人、手を引かれ、親族と、長持などの嫁入り道具を持った人々が続き、花嫁の実家から花婿の家まで嫁入り行列する様子が見られました。

今回、結婚式を挙げたのは、廣川晃一さんと英里香さん（根雨）。長持唄が流れる中、ちようちん持ちを先頭に、2人を乗せた人力車と親族の行列が、根雨神社近くから出発し、祇園橋、近藤家



▲笑顔あふれる晃一さん（左）と英里香さん



▼たくさんの祝福に涙があふれる



◀本陣の門前にて

▼たくさんの祝福の声に囲まれて



▼伯耆江美寿会の2人が長持唄を披露



▼写真愛好家や見物人らが祇園橋をうめつくしました



▲根雨4区自治会有志の皆さんが傘踊りで祝福

日野町公舎などを経由し、役場までの約1kmを練り歩きました。当日は、花嫁行列をカメラに収めようと、町内外から多くの写真愛好家が駆け付け、近藤家前、本陣の門前などの出雲街道の面影が残る場所でも中でシャッターを切っていました。また、たくさんの町民が沿道から「おめでとう」と祝福。根雨郵便局前では、根雨4区有志の皆さんが傘踊りを披露し、花を添えました。訪れた町民からは「とてもきれいでした。こういった催しが毎年あればうれしい」といった声が聞かれました。

晃一さんと英里香さんは「風情ある町並みを見ながら、たくさんの人に祝福され、とてもうれしいです」「日野町の皆さんの協力で花嫁行列ができ、幸せです」と話し、うれしそうな表情を浮かべていました。